

令和2年度 第1回

精神保健福祉士養成学科 教育課程編成委員会 報告書

開催日時：令和3年2月12日（金）15:30～17:00

場所：zoom 形式

参加者名

委員 阿部 未麻貴（医療法人社団総合会 武蔵野中央病院 相談室長）
委員 瀬川 聖美（社会福祉法人 本郷の森 理事長）
委員 関原 育（東京都精神保健福祉士協会 理事）
教員 岡崎 直人（精神保健福祉士養成学科 学科長）
教員 根本 典子（精神保健福祉士養成科 科長）
職員 萬崎 保志（教務課 次長）
職員 丸山 航也（教務課）
職員 板野 弘明（教務課）
職員 松木 健太（教務課）

議題

1. 出席者紹介

各委員より自己紹介があった。

2. 職業教育専門課程の説明と教育課程編成委員会の概要（萬崎）

萬崎より、教育課程編成委員会の規定や概要について説明があった。

<教育課程編成委員会とは>

教育課程編成委員会とは『関連業界、有識者の方々とともに教育改善・開発を行う検討機関』。
“共に”というのが大きなポイントになる。

求められる観点としては『業界で必要とされる人材像を念頭に、現在の養成校での教育をどう改善することが業界として望ましいか』が重要。

専門職としての課題や展望を踏まえ、どういった教育をしていくのかを養成校と外部委員で協働し一緒に作っていくことが必要となる。

また、取り組む課題（テーマ）に関しては一過性のもではなく、継続的に取り組み、毎年少しずつでも改善し、実績を作っていくことが求められている。

<設置の背景>

『職業教育の高等教育化』、『社会人の学びの場の整備』という国の教育施策の方針が背景となっている。

また、文科省が認定している『キャリア形成プログラム』の条件の中にも、教育課程編成委員会の設置・運営は必須となっている。

3. 精神保健福祉士養成学科の学科概要と課題（岡崎）

岡崎より精神保健福祉士養成学科の情報及び課題の共有があった。

<学生情報>

入学者数 75 名（女性 67%、男性 37%）。入学者の内、社会人経験を積み入学される方が 54 名（72%）。年齢は 20 代が多く、上は 60 代まで入学している。

入学時の志望動機として、簡単に分けることができないが、多くを占める 4 つ紹介をする。

・進路選択として

⇒心理学系の 4 年制大学卒の学生が 1 年での資格取得を目指す。

・自身のメンタル不調の経験

⇒自身がお世話になった経験や、自身の不調の経験から精神保健福祉士を目指す。

・身近にメンタル不調・障害をお持ちの方がいる

⇒その支援をするため、精神保健福祉士を目指す。

・仕事上の経験から

⇒医療機関で勤務していて精神保健福祉士を知り資格取得を希望。また、企業の人事課などでメンタルヘルスケアの重要性を知り、精神保健福祉士の資格取得を目指す。

<学生の特徴>

対人関係が苦手な学生も一定数おり、座学は問題ないが、グループワークなどに抵抗を持つ学生もいる。

また、様々な経験をお持ちの方が集まるため仕方のない部分ではあるが、精神障害者や精神保健福祉士のイメージに幅があり、『カウンセリングで癒す』ことが業務と捕らえる方もいれば、『制度や情報を伝える』ことが業務と捕らえる方もいる。

勉強していく中で徐々に整っていくところではあるが、後々までその傾向が残っている印象を受ける。

<退学理由について>

例年多くの割合を占めるのが体調不良。また家庭の事情や、勉強をしていく中で思っていたのとは違うといったような職業理解不足もある。また今年にはコロナウイルスの影響もあり、オンライン授業についていけず退学、コロナウイルスに関する学校の対応に不満ということで退学をした学生もいた。

<今年度の実習について>

医療実習に関しては、病院の様々な部署の精神保健福祉士の方を学校にお越しいただき、学内実習を実施した。学生のアンケート結果からは満足度が高くでていたが、学内実習となったことで『直接関わる機会や、身を置き体感するのが難しかった』『失敗すること、負の感情と向き合うことや立ち直り方が掴みきれなかった』『葛藤や緊張感が薄かったかもしれない』という前向きな反省点が学生の声としてあがった。

本校は1年制課程のため、実習を行う期間が限られており、かつ、次年度以降もコロナウイルスの影響を受ける可能性の高く、現場に出られない不安をどのように払拭していくのか、今後の課題と感じている。

<学科の目指すもの>

- ・様々な経験を持った学生が、その経験を十分に生かすことができ、相互の交流と学びの中で成長を遂げる機会を提供する。
- ・国試が終わったら忘れてしまう知識ではなく、現場に出てからも立ち返れるような価値・技術や人間関係を得る。
- ・精神保健福祉士という職業選択をして良かったと思い、やりがいを持って仕事の継続が可能となる基盤を構築する。

阿部) 退学者の割合は例年と比べどうだったか。

岡崎) 今年度は少し多くなっている。

阿部) コロナウイルスの影響はあったか。

岡崎) はっきりコロナウイルスと関連していると判断しているのは2名だが、メンタル面での程度の影響があったかは判断が難しいところ。

4. 今後の協議テーマについて

萬崎) 今後のテーマを検討していくにあたり、委員の方々から現場に置いて感じている課題や、業界ではこんな話題があるというようなものがあれば共有いただき、学校の課題と合致する部分があるか探ってみたい。協会での今後の展望や養成校の課題などの話題はあるか。

関原) 今年度はコロナの話題。実習で現場体験できず、就職するという事で学生も一緒だと思うが、迎え入れる側としても不安はある。

精神保健福祉士全般のことにはなるが、質も問題も感じている。法律も変わっていく中で、学び続けていく必要がある。そのため、卒業後の教育が課題となっている。

萬崎) 職員の研修は施設単位で行っているのか。

関原) 施設や法人でプログラムを持っているところが多いように感じる。また、内容によっては実習を行政から求められるため、受けることになる。そのほか、精神保健福祉士協会に入っている人はその中の初任者、中堅者、スペシャリストのようなプログラムを受け

ていくことはできるが、全員が入会しているわけではない為、人によってばらつきがあると言える。

瀬川) 実習ができず精神障害の当事者と全く会うことなく就職するということを考えると、イメージとの相違などの理由で、退職につながる可能性もあり、施設としても不安がある。そのためリモートの実習計画をより充実してほしいと感じている。利用者とも接することができる機会を与えられるとより良い。また、卒後教育に関して、1年目は顧問医から教科書を使用し、改めて精神疾患についての勉強会を実施したり、外部研修の推奨や内部研修を行い勉強できる機会を作っている。個人的には精神保健福祉士協会での学びも多い為、精神保健福祉士協会の活用の有効だと感じている。

阿部) 実習がなかったことは卒後に気になる場所。また、以前は専門学校卒と4大卒とは意識に差があるように感じていた。そういった中で、現場実習が無かったということを考えると、意識をどのように高めていくかということが課題と感じる。卒業後の教育に関しては、病院では新卒採用は少なく、経験者が多いため、勉強会はあまり実施できない。

萬崎) このまま学生を卒業させ現場に出すことに、教員も不安かと思うが、教員の中で話していることはあるか。

岡崎) 個人的には、現場の事例などを話し合えるような機会を作っていけたらとは考えている。また、コロナ世代となる今年の学生は、現場に出ていないことを不安視されているということをおぼえている状況。次年度はどのようにすれば現場で生きるといったような実習が可能になるのか、現場の皆様が不安にならない実習をすることができるのか、是非お知恵をお貸しいただきたい。

根本) 医療機関に出いけないので、そこに関しては研修などを行う必要があるかなとは感じている。

萬崎) コロナウイルスによる影響がいつまで続くのか、私たちも全く読めない状況。そのため、今後の検討テーマとしては、コロナウイルスとは関係なく、『教育内容の改善や、質を上げていくために、養成校としてやっていくこと』と、コロナウイルスによる影響が来年度続く可能性が高まった場合に『どのように教育の質を保っていく、また補っていくのかという仕組みづくり』の2つ分けられるように感じる。第2回目の教育課程編成委員会にて具体的な取り組みを決めていきたい。

6. おわりに

- ・第2回教育課程編成委員会では次年度の具体的なテーマの検討を行う。
- ・何か追加の情報や課題があれば、次回持ちよる。